

■建学の理念・精神

孔子の教えすべてが本学の建学の精神に通じるが、特に『論語』の章句より「義を行ひ以てその道に達す（行義以達其道）」（季氏篇）を選び出し、建学の精神としている。

本学の目指す「義」の精神は、「義」を行うことによって自分自身を切り開いていくことである。また「義を行う」とは、人間として為すべき使命を果たすことであり、端的に言えば理想を抱きながら現実の変革のために行動することにはかならない。儒学に説かれる「徳」とは、誰もが人間として、人とともに生きるためのさまざまな力である「人間力」であり、人間としての思いやり、優しさ、そして何よりも人間の使命感をもって、人のために行動する力こそ「人間力」である。そうした観点に立って、知識のための知識ではなく、「行義」の二字に込められた実践知、人間力を身につける人格の形成と教育を通じ、広く社会に儒学思想・倫理を啓発普及させることが本学の教育理念となっている。

(ホームページ参照) http://www.shk-ac.jp/ijc/info_education_founding.html

■使命と目的

『本学は学校教育法の趣旨に従い、あわせて本学創立者の建学の精神を体し、もって地域文化並びに幼児教育及び社会福祉・児童福祉の向上に寄与せんとする人材の育成を目的とする。』（学則第2条）

(教育目的)

子どもの目線に立ち一人ひとりの行動と能力、心理を正しく理解するとともに、個性に応じた適切な指導と助言を与えることができる幼稚園教諭並びに保育士の養成を目的とする。

■教育研究上の基本組織

①学科名称と構成

大学等	学科・課程
いわき短期大学	幼児教育科

②学科の特色「幼児教育科の学修成果」

本学は、建学の精神に基づき、幼児教育科の教育理念・教育目的となる条文を学則第1章第2条に「本学は学校教育法の趣旨に従い、あわせて本学創立者の建学の精神を体し、もって地域文化並びに幼児教育及び社会福祉・児童福祉の向上に寄与せんとする人材の育成を目的とする」と定め、教育に取り組んでいる。

■教員組織、教員数、教員の業績等

①教員数、専任教員と非常勤教員の比率

(令和6年5.1現在)

学部	専任教員数 (A)		非常勤教員数 (B)		比率 専任：非常勤
	男	女	男	女	
幼児教育科	7	5	6	13	12：19

②専任教員の職位

(令和6年5.1現在)

学 科	専任教員					非常勤 教 員
	教授	准教授	講師	助手	計	
幼児教育科	5	3	4	0	12	19

③専任教員の年齢構成

(令和6年5.1現在)

学 部	30 歳以下	40 歳以下	50 歳以下	60 歳以下	61 歳以上	計
幼児教育科	1	1	3	4	3	12

④教員が有する学位及び業績

https://www.iwaki-jc.ac.jp/infant01_08.html

⑤専任教員の職位と担当科目

(令和6年5.1現在)

教員名	職名	職位	学位	専門分野	主な担当授業
田久昌次郎	学長顧問	教授	博士	歯学臨床系	子どもの保健、地域防災計画学Ⅰ・Ⅱ、論語と教育
佐野法子	特任	教授	修士	臨床心理学	子どもとお話A・B、乳児保育ⅡA・ⅡB、子育て支援A・B、保育内容指導法(言葉)A・B
福井胡子	学科長 教務委員長	教授	博士	教育学	人間力とキャリアⅠA・ⅠB、保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、保育実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、教育原理、教育課程総論、教育方法論、教師論
森下 剛	キャリア 委員長	教授	修士	発達心理学	教育心理学、大人の発達心理学、発達心理学Ⅰ、子どもと人間関係A・B、人間力とキャリアⅡA・ⅡB、子ども家庭支援の心理学、保育・教職実践演習(幼稚園)、クラスゼミⅠ・Ⅱ
長瀬 賢弘	高大接続 委員長	教授	博士	音楽	器楽演習ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、幼児音楽A・B、クラスゼミⅠ・Ⅱ
鈴木隆次郎	学生 委員長	准教授	学士	社会福祉学	ボランティア演習、社会的養護Ⅰ・ⅡA・ⅡB、地域の福祉、保育・教職実践演習(幼稚園)、教育実習指導、教育実習、保育実習指導Ⅱ・Ⅲ、保育実習Ⅱ・Ⅲ、クラスゼミⅠ・Ⅱ
武井 眞澄	障害学生支 援委員長	准教授	修士	特別支援教育	子ども家庭福祉、特別支援教育ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、保育・教育実践演習(幼稚園)、クラスゼミⅠ・Ⅱ
中川 希望	衛生 委員長	准教授	修士	教育学	スポーツ(講義・実技)A・B、幼児体育A・B、子どもの健康と運動A・B、保育内容指導法(健康)A・B、保育実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、クラスゼミⅠ・Ⅱ
中村 知子		講師	準学士	情報リテラシ ー関係	情報基礎演習A・B
櫻庭 真弓		講師	修士	臨床心理学	人間力とキャリアⅠA・ⅠB、心理学、保育内容指導法(人間関係)A・B、発達心理学ⅡA・ⅡB、子どもの臨床心理学、教育相談法、子ども家庭支援論、クラスゼミⅠ・Ⅱ
酒井 啓亮		講師	準学士	教育学	保育内容総論A・B、子どもの活動と自然A・B、保育内容指導法(環境)A・B、教育実習指導、教育実習
十時 宏之		講師	修士	芸術学	造形表現A・B、子どもの造形と遊びA・B、児童文化、人間力とキャリアⅡA・ⅡB、教育実習指導、教育実習

■入学、卒業、修了及び進路の状況

①入学者受け入れの方針(アドミッション・ポリシー)

〈幼児教育コース〉

- 1) 本学の建学の精神・教育目的を理解し、本学で学びたいという強い意欲を持っている人
- 2) 子どもに愛情を持ち、保育者を目指して努力している人
- 3) 高等学校で履修した学習内容について理解し、主な科目の基本的な知識と学習経験を有している人

〈キャリアコース〉

- 1) 本学の建学の精神・教育方針を理解し、本学で学びたいという強い意欲を持っている人
- 2) 幼児教育をベースとした教育分野に興味を持ち、福祉や経済など地域の社会活動に関心を持っている人
- 3) 高等学校で履修した学習内容について理解し、主な科目の基本的な知識と学習経験を有している人

【幼児教育科入学までの学習】

高等学校卒業までになされる幅広い学びと豊かな経験は、本学での学びの基盤となります。幼児教育科(幼児教育コース・キャリアコース)における専門教育は、高等学校での教育内容を理解していることを前提に行います。したがって、高等学校卒業までに下記の学習経験を身につけることが望ましいと考えています。

国語：基礎的な読解力と表現力、思考力などのコミュニケーション・スキル

地理歴史・公民：科目における基礎的な知識および社会事象に対する関心

数学：基礎的な数学の知識と計算力

理科：自然や科学の基本的な知識や好奇心

外国語：リスニングおよび文法に関する基礎的な知識

芸術：音楽、美術などの基礎的な技能と表現力

保健体育：保健・衛生に関する基礎的知識と健康な生活を営む力を有し、健全な心と体を持つ

保育・福祉の学び：家庭科などでの関連する基礎知識とボランティア活動の実践

②入学者数、専任教員一人あたりの学生数

(令和6年.5.1現在)

学科	入学者の状況		在学生の状況		専任教員一人あたりの学生数	収容定員充足率
	定員	入学者数	定員	在学生数		
幼児教育科	100	59	200	137	11.2人	67.0%

③社会人受入数、留学生数、留年者数

(令和6年.5.1現在)

学科	社会人数	留学生数	留年者数
幼児教育科	0	0	1

④入学者の推移

(令和6年.5.1現在)

科	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
幼児教育科	76	74	72	64	63	74	59

⑤退学者数、除籍者数、中退率、海外派遣

(令和5年度実績)

学科	退学者数	除籍者数	中退率	海外派遣数
幼児教育科	4	1	2.92%	0

⑥卒業・修了者数、学位授与数、進学者数、就職者数

(令和5年度実績)

学科	卒業・修了者数	学位授与数	進学者数	就職者数
幼児教育科	57	57	2	48

⑦進路状況（令和5年度実績）

学科・課程	卒業生数	就職希望者数	進学者	その他	就職率	進路状況				
						認定こども園	幼稚園	保育園	施設等	一般企業
幼児教育科	57	48	2	7	100%	16	3	27	1	1

⑧主な進路先

https://www.iwaki-jc.ac.jp/career05_01.html#gsc.tab=0

■授業科目、授業の方法・内容・計画

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

幼児教育コース

- (1) 実習時期、科目の教授内容を念頭に置いた科目配列の順序性への配慮
- (2) クラスゼミなどによる少人数教育による個別化された教育
- (3) 実習事前事後指導の充実と其中での体験学習による実践力の向上
- (4) 履修カルテ作成による自己の課題の明確化と教職・保育実践演習での確認と補強

キャリアコース

- (1) 教養・専門科目を複合的・分野横断的に学び、専門的な学習に繋がる知識や技能と社会人基礎力（リテラシー・コンピテンシー）の習得
- (2) 少人数教育による個別・具体的な教育
- (3) 幼児教育に関連する免許・資格については、希望選択制
- (4) 卒業後の進路希望に応じた履修モデル提示とキャリア教育の実施

「幼児教育科の学修成果」（2コース共通）

（基礎的・汎用的能力）

- ①人間関係形成能力：人間関係に配慮した言動を心がけることができる。相手の気持ちに寄り添って話しを聞き、自分と異なる考えや価値観を受け入れることができる。
- ②社会形成能力：割り当てられた役割を、自分なりに工夫しながら取り組むことができる。チームで課題に取り組む際には、自ら情報発信したり雰囲気づくりをするなど相手の立場やチームへの貢献を考えて行動することができる。
- ③自己理解能力：覚えた知識や技術は、すぐに身につくよう努めている。何かに取り組む際には自発的に行動し、難しいことでも臆せず常に向上心を高めることができる。
- ④課題対応能力：様々な情報を正しく収集・分析し、想定される課題を自ら発見し、その課題に対して、自分なりに具体的な目標や計画を立てることができる。事前にリスクを想定し、目標や計画の実現性を吟味することができる。
- ⑤キャリアプランニング能力：自分なりに試行錯誤しながら自身の役割や働くことの意義を見出そうと努めることができる。その中で主体的に将来設計や進路選択をすることができる。

（専門的能力）

- ⑥理解力・表現力：科目の内容を理解し、適切に表現することができる。
- ⑦応用力・指導力：科目で学んだ内容を応用し、適切な指導・助言をすることができる。

【学則】

https://www.iwaki-jc.ac.jp/university_information02_02.html

【令和6年度カリキュラム表】

- 幼児教育科 <学則第27条別表(一)>

https://www.iwaki-jc.ac.jp/infant01_07.html

【令和6年度シラバス】

- 幼児教育科

https://www.iwaki-jc.ac.jp/infant01_07.html#gsc.tab=0

【令和6年度学年暦】

- 幼児教育科

https://www.iwaki-jc.ac.jp/college_life01_01.html

【履修モデル】

学科等	修業年限	必要修得単位数	科目区分ごとの修得単位数				修得可能な学位
			科目区分	必修	選択	合計	
幼児教育科	2年	62単位	教養科目	5単位	9単位以上	14単位以上	短期大学士
			専門科目	13単位	35単位以上	48単位以上	
			計	18単位	44単位以上	62単位以上	

■卒業・修了の要件及び取得学位等

①卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

■幼児教育コース

常に探究心に富み、相手の立場を考えられる公平な心を持ち、何事にも理性と責任を持ってあたれることを保育者の理念として、子ども一人ひとりの行動と、能力、心理を正しく洞察し、個性に応じて適切な指導と助言を与えることのできる幼稚園教諭及び保育士の養成を行っているが、社会人として、また家庭人としての円満な人格形成も目指している。

このため、建学の精神である儒学に関する教養科目や学科の特性を活かした専門科目の中から卒業のために必修の科目を設定して卒業認定し、地域社会に貢献できる人材育成を目指している。

幼児教育コースでは、62単位以上の単位修得と必修・免許資格等の要件を充たし、前述の学修成果を修得した学生に卒業を認定し学位を授与する。

■キャリアコース

現代社会における多様な課題に対して多面的な視点から分析・解決する能力と相手の立場を考えられる公平な心を持ち、自らの人格を高めることのできる能力を身につける。このため、本学の建学の精神である儒学の教えを十分に理解し、教養科目や教育・福祉・経済に関する専門科目を複合的に学び、社会人として必要な知識・技能を有し地域に貢献できる人材育成を目指している。

キャリアコースでは、62単位以上の単位修得と必修等の要件を充たし、前述の学修成果を修得した学生に卒業を認定し学位を授与する。

②取得可能な免許及び資格について

https://www.iwaki-jc.ac.jp/infant01_04.html

③学位授与・授与率（令和5年度実績）

学 部	卒業者数	学位授与数	授与率
幼児教育科	57	57	100%

■学生生活及び就職支援について

教務部・学生部

専門の部署として教務部・学生部が設置されている。教務部では、主に学生の履修等に関係する入学・休学・退学・卒業に関する事務・支援や授業及び卒業に関する事務・支援を行う。学生部では、学生生活を円滑に送れるように支援する。主に奨学金に関する事務・支援や学生証、学生定期用通学証明、学割等を発行している。

本学の特徴は、全ての各学年においてゼミが必修となっており、学生は何らかのゼミに所属する。各ゼミ担当教員が中心となり、教務部・学生部も履修からはじまる学修指導や生活相談を行っている。

https://www.iwaki-jc.ac.jp/infant01_02.html#gsc.tab=0

https://www.iwaki-jc.ac.jp/college_life05_01.html

キャリアセンター

学生ひとり一人の将来の進路や人生における働き方や生き方を考え、目先の就職という“点”で考えるのではなく、人生の終焉までの“線”を通して考えてもらう支援をしております。具体的な実施内容として、下記の活動を行っております。

1. ゼミを中心とし、学生、保護者、大学が三位一体となった新しいキャリア教育体制を築く。
2. ゼミ担当者がキャリアセンターと連携し、各年次に応じたキャリア教育のアドバイザーとなり、キャリアに関する各学年のゼミ会議を開催すると同時に、保護者会等を通じて保護者への情報提供と連携を行なう。
3. キャリア講座および資格講座の充実を図る。
4. キャリアセンターにおいて求人開拓、キャリア教育、インターンシップ、就職相談、教員に対するキャリア教育等、キャリア関連の各種業務を企画・統括する。
5. キャリアセンターにおける情報システムの整備、ならびにキャリア・アドバイザーの活用を行なう。

http://shk-ac.jp/ijc/career_guide.html

保健管理センター

保健管理センターは、学生・教職員の健康の保持増進を図るため、定期及び臨時の身体測定、健康診断、並びに救急処置、各種健康相談（メンタルヘルス等を含む）、保健指導、健康教育、環境衛生及び感染症の予防についての指導等、その他健康の保持増進についての必要な業務をおこなうところです。

そのために、簡単な測定検査用具・救急処置薬品・衛生器材・休養ベッド等が設置されています。

https://www.iwaki-jc.ac.jp/college_life05_03.html#gsc.tab=0

学生相談室

学生相談室は、学生のこころの健康の保持増進を図るため、家族関係、友人関係、学業、部・サークル活動、進路、病気や障害、ハラスメント（DVを含む）など、学生生活に関するあらゆるこころの相談に応じています。

■その他の教育研究上の情報

①海外の諸学校との協定状況

現状での協定学校はない。

②社会貢献活動

本学は、「地域連携」を大学の理念とし、地域に信頼され愛される大学、地域に開かれ貢献できる大学を目指している。学生とともに地域交流・連携活動を一層充実させることを運営方針に掲げ、様々な事業を展開している。

(1) 高大連携プログラム

「高大連携プログラム」（大学と高等学校の間で協定書を締結して長期的な相互交流）とは、高校と大学が協働する教育活動のことである。高校生が大学での「学び」を体感することにより、学習に対する目的意識や将来に対する意識を高めることを目的としている。また、高大連携を通して、幼児教育に携わる優秀な人材の育成、高校生の将来の夢の実現に向けた協力体制を構築することを目的としている。

対象高等学校名	内 容
東日本国際大学附属昌平高等学校	－本学教員が高校に出向いて授業を行う形態 －高校生が大学に出向く形態
県立平商業高等学校	－本学教員が高校に出向いて授業を行う形態 －高校生が大学に出向く形態
県立いわき総合高等学校	－本学教員が高校に出向いて授業を行う形態 －高校生が大学に出向く形態
福島県磐城第一高等学校	－本学教員が高校に出向いて授業を行う形態 －高校生が大学に出向く形態
県立ふたば未来学園高等学校	－本学教員が高校に出向いて授業を行う形態 －高校生が大学に出向く形態
県立磐城農業高等学校	－本学教員が高校に出向いて授業を行う形態 －高校生が大学に出向く形態
茨城県立高萩清松高等学校	－本学教員が高校に出向いて授業を行う形態 －高校生が大学に出向く形態
福島工業高等専門学校	－双方の有する人的・物的・知的資源を相互活用し、教育の充実を図る －内容は都度協議

(2) 市民を対象としたプログラム

プログラム名	内 容
アウトリーチ講座	高校生を含む市民を対象に、求めに応じて本学教員が出向いて講義を行うもの（無料、単位認定なし）。
昌平図書館開放	市民開放として、平日は午後6時、土曜日は午後1時まで開館。現在、いわき市内図書館（大学、高専及び市立）間ネットワーク利用が可能となっている。

(3) 地域ボランティア活動

https://www.iwaki-jc.ac.jp/university_information04_05.html#gsc.tab=0

【大学と地域社会との協力関係構築】

平成 26 (2016) 年に広野町と連携協定書を締結。令和元 (2019) 年より広野町のこども園での「幼児体力測定」を実施し、未来を担う子どもたちの健康を支える支援を行っている。

平成 28 (2016) 年、幼児教育ならびに福祉従事者の実践的指導力向上を推進することを目的とし、日本防災士会福島県支部と連携協定書を締結した。地域住民・学生の自助・互助・共助意識の醸成を図るための共同事業として公開講座「地域防災計画学」を開講し、防災士資格の取得支援を行っている。

平成 30 (2018) 年から、福島工業高等専門学校と連携協定書を結び、東日本大震災により被災した福島県とその周辺地域の復興支援及び福島浜通り地域等に新たな産業の創出を目指す福島イノベーション・コースト構想の推進に資するため、教育・研究分野における緊密な連携・協力関係を構築している。

■校地・校舎等 (学生の教育研究活動の環境)

キャンパスの所在地	〒970-8567 福島県いわき市平鎌田字寿金沢 37			
主な交通手段	常磐線いわき駅下車			
キャンパスの概要	【キャンパスマップ・アクセスマップ】 (http://www.shk.ac.jp/ijc/info_access_access_map.html)			
運動施設の概要	運動場 (東日本国際大学と共用) 本学には、キャンパスに附設して第一運動場(鎌田石名坂)、弓道場、柔道場がある。			
	体育館 (東日本国際大学と共用) 本学における体育館は、体育の授業のほか、部活動に利用されている。 これらの運動場施設の規模と用途は以下の通り			
	施設名称	用途	面積 m ²	備考
	第一運動場	一般運動場	6,127.5	
	第二運動場	野球場・サッカー場	53,972.57	
	鬘道館	柔道場	836.4	330 畳
	屋内野球練習場	野球	1,851.08	
	弓道場	弓道	97.78	
体育館	授業・部活動	1,694.4		
課外活動の状況	<p>学生自治会は学生の自治組織として「いわき短期大学学生自治会規約」に則り自発的に活動している。自治会の主な学内行事は学園祭、いわ短祭、謝恩会である。10月に行う学園祭(「鎌山祭」と称する)は、四年制大学と共に実行委員会を組織し、二日間の日程で一般公開を行っている。ゼミ、サークルが中心となるが、ほぼ全員の学生が参加し、1年間の研究成果の発表と模擬店、交流イベントなどを行っている。11月には学生、教員の親睦を深めることを目的に「いわ短祭」が行われる。また、3月には卒業式後に「謝恩会」を開催している。</p> <p>クラブ活動は、運動系、文科系のクラブ、サークルなどがあり、学生は活発</p>			

に活動している。クラブ、サークル活動は自治会規約によって定められている。

運 動 系	文 化 系
<ul style="list-style-type: none"> ・弓道部 (強化指定部) ・バレーボール部 ・ソフトテニス部 ・フットサル部 ・バスケット部 ・テニスサークル 	<ul style="list-style-type: none"> ・わたぼうし (ボランティア) ・軽音楽部 ・吹奏楽部 (強化指定部) ・ホームメイド愛好会 ・会話サークル ・合唱部

【施設設備整備】

本学は、JR常磐線いわき駅より徒歩 15 分の閑静な小高い鎌田山に併設している東日本国際大学とともに立地しており、キャンパス設備の殆どはこの地に、あるいは徒歩可能な範囲に弓道場、柔道場、第一運動場と学生駐車場が整備されている。また離れて設置されている主要な関連施設は、野球場・屋内野球練習場並びにサッカー練習場 (第二運動場) である。校舎・校地の大学設置基準面積との対比は下表の通りである。

・校舎/校地一覧表

	収 容 定 員 人	校 舎			校 地		
		基準面積 m ²	現有面積 m ²	差異m ²	基準面積 m ²	現有面積m ²	差異m ²
東日本 国際大 学	820	6,196.85	11,969.15	5,772.30	8,200	87,106.46 (大学と共用)	76,906.46
いわき 短期大 学	200	2,350	3,559.14	1,209.14	2,000		
計	1,020	8,546.85	15,528.29	6,981.44	10,200	87,106.46	76,906.46

校舎は1号館から5号館までに分かれており、本学は主に5号館を使用している。5号館には、講義室のほか、ピアノ演習室及び自習室、コンピュータ演習室、図画工作室、さらに幼児用の机・椅子等を整備した模擬保育室、四面黒板及び備付AV機器等を整備したラーニングcommons室・アクティブラーニング室が設置されている。また、孔子の教え「儒学」を建学の精神としている本学では、1号館屋上に孔子廟である湯島聖堂を再現した「大成殿」があり、例年「孔子祭」を開催している。

【学生納付金等に関する情報】

2024 年度学費 https://www.iwaki-jc.ac.jp/admission_information04_01.html#gsc.tab=0

1 年次納入額

単位：円

納付金の種類	入学時納付金	秋学期納付金	年額
入学金	230,000	-	230,000
授業料	340,000	340,000	680,000
設備費	50,000	50,000	100,000
教育充実費	70,000	60,000	130,000
年間諸費	60,000	-	60,000
電算機利用登録料	10,000	-	10,000
合計	760,000	450,000	1,210,000

※上記の学納金以外に、学生傷害保険(2年間は2,430円・長期履修3年間は3,620円)、

自治会費20,000円、鬘友会費(同窓会)25,000円を徴収します。

※幼稚園教諭免許・保育士資格に関する実習費については、入学後別途徴収します。

2 年次納入額

単位：円

納付金の種類	春学期納付金	秋学期納付金	年額
授業料	340,000	340,000	680,000
設備費	50,000	50,000	100,000
教育充実費	70,000	60,000	130,000
年間諸費	60,000	-	60,000
合計	520,000	450,000	970,000

※履修科目等でかかる費用等は、別途徴収します。

◎長期履修制度の納入期間については、下記①または②を選択することができます。

①納入期間(2年間)

単位：円

項目	1 年次納入額			2 年次納入額			3 年次納入額		
	入学時	秋学期	合計	春学期	秋学期	合計	春学期	秋学期	合計
入学金	230,000		230,000						
授業料	340,000	340,000	680,000	340,000	340,000	680,000	0	0	0
設備費	50,000	50,000	100,000	50,000	50,000	100,000	0	0	0
教育充実費	70,000	60,000	130,000	70,000	60,000	130,000	0	0	0
年間諸費	60,000		60,000	60,000		60,000	0	0	0
電算機利	10,000		10,000						

用登録料									
合計	760,000	450,000	1,210,000	520,000	450,000	970,000	0	0	0

②納入期間 (3年間)

単位：円

項目	1年次納入額			2年次納入額			3年次納入額		
	入学時	秋学期	合計	春学期	秋学期	合計	春学期	秋学期	合計
入学金	230,000	—	230,000	—	—	—	—	—	—
授業料	227,000	227,000	454,000	226,500	226,500	453,000	226,500	226,500	453,000
設備費	33,000	33,000	66,000	33,500	33,500	67,000	33,500	33,500	67,000
教育充実費	43,000	43,000	86,000	43,500	43,500	87,000	43,500	43,500	87,000
年間諸費	20,000	20,000	40,000	20,000	20,000	40,000	20,000	20,000	40,000
電算機利用登録料	10,000	—	10,000	—	—	—	—	—	—
合計	563,000	323,000	886,000	323,500	323,500	647,000	323,500	323,500	647,000

※①または②により学納金を修めた後、3年間で卒業要件となる科目・単位を未修の者は、留年扱いとし①の2年次の授業料等を徴収します。

【学生支援と奨学金に関する情報】

種類	要件	申込方法
いわき短期大学奨学金	<ul style="list-style-type: none"> 本学に在籍する学生で、学業成績、部活動成績、人物ともに優れた者で経済的理経済的な理由により修学が困難な者。 	<ul style="list-style-type: none"> 所定の願書に学費負担者と連署の上、必要書類を添えて申し込む。
福島県奨学金	<ul style="list-style-type: none"> 大学に在学している福島県出身の学生で、品行が正しく、学術に優れ能力があり、経済的理由により修学が困難な者。 	<ul style="list-style-type: none"> 所定の願書に記載の上、必要書類を添え、大学の証明を受けて申し込む。
あしなが奨学金	<ul style="list-style-type: none"> 保護者等が病気や災害（交通事故を除く）もしくは自死などで死亡、またはそれらが原因で著しい後遺障害を負い、教育費に困っている者。 	<ul style="list-style-type: none"> 所定の願書に記載の上、必要書類を添え、大学の証明を受けて申し込む。
平和中島財団奨学金	<ul style="list-style-type: none"> 日本の大学に在籍する私費外国人留学生で、学業、人物ともに優れ経済的理由により修学に困難がある者。 	<ul style="list-style-type: none"> 在籍する大学からの推薦により、書類選考する。
日本学生支援機構	<ul style="list-style-type: none"> 経済的理由により修学が困難な学生。 人物、健康、学力、家計について総合的に審査し、推薦基準を満たす。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学の長を通じて、機構理事長に推薦する。

	した者の中から学校の選考委員会等で選考し、機構に推薦。	
--	-----------------------------	--